

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372800447		
法人名	社会福祉法人 碧晴会		
事業所名	グループホーム 川口結いの家		
所在地	〒447-0823 愛知県碧南市川口町1丁目178番地1		
自己評価作成日	平成22年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成22年 5月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372800447&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日2回(午前と午後)買い物に出かけることで、地域との交流や外出の機会を作っています。それにより、ご入居様が週に1度は外出することが出来るように配慮しています。毎食の献立も広告を見ながらご入居様が決めることで、選択、自己決定と希望に沿ったお食事をご用意しています。また、玄関を施錠しないことで、行動に制限を与えていません。そのためか、ご入居様が近所のご友人宅や公園へ遊びに行かれたり、ゴミ捨てなどご本人様のご意思でお手伝いをさせていただいております。ケアプランにおいては、センター方式をアレンジしたシートを使用してお入居者の状態や出来る事、やりたい事などを把握する事でADLの低下を抑制し、グループホームでの生活環境作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族アンケートの回答率が高く、9人中8人からの回答があった。それぞれの家族がコメント欄に、職員に対して「感謝・優しい・親切・丁寧」、「時には私(嫁)の愚痴まで聞いてもらっています」と感謝の言葉を述べている。調査で訪問する前に、ホームと家族の絆の深さを知ることが出来た。リビングでは職員が利用者の横に座り、一緒に団欒する微笑ましい状況に接した。一方、地域との繋がりを示す例として、「施設のまわりの草取りをしてくれる。野菜差し入れがある。」、「地域の行事に参加する。施設の行事に多くの地域の方々の参加がある。」等、地域の方々よりの暖かい支援を受けている。このように、利用者・家族・職員・地域の4本柱がしっかりと噛み合った真の地域密着型のグループホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を各事業所の職員で、常に確認しています。全職員は意思の統一を図り、理念を大切にケアに努めています。	法人の理念「思いやる心、暮らしを紡ぎ地域と結ぶ」を基本とし、「入居者が出来る力を維持できるように」をホームの年度方針として、個人目標まで展開して取り組んでいる。	個人目標は具体的なものであるが、評価する際に達成度の確認がやや難しく感じられる。評価をしやすいように数値目標を掲げ、職員が達成感を味わえる取り組みを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事のウォーキング大会へ毎年参加しています。近隣住民の方から野菜の差し入れを頂く事も日常的に交流があります。また、当法人主催の地域交流事業や夏祭りにも多くの地域住民の方々にご参加して下さっています。	近所の方に積極的に挨拶を交わし、近所の方が施設周辺の草取りをしたり、野菜の差し入れをしたりして、日常的な交流を行っている。ウォーキング大会等の地域行事にも参加している。ホームの夏祭りは、100名程の地域のボランティアが参加し、総勢200名の一大イベントとなった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が一丸となり、地域交流事業での地域の方々への講義をしています。また、オープンカレッジといった、専門の講師を招き地域の方々へ認知症へのご理解に努めています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご意見はスタッフ会議で話し合いサービスの向上に活かせるよう努めています。また、民生委員や市職員のご参加により、支援体制やご理解、意見などを頂いています。取り組みは運営推進会議にて、毎回お話ししています。	市役所職員・民生委員・利用者(ほぼ全員)・利用者家族・ホーム職員(施設長・管理者・職員)を主要メンバーとして2ヶ月に一度開催している。活動報告を中心に参加者との意見交換を行い、参加者からも活発な意見が出されている。	会議をマンネリ化させないためにも、知見者として提携医の医師、学区の小・中学校の先生・ボランティアグループのリーダー等をその時々課題に合わせ構成メンバーに加え、さらに幅広い方々との意見交換を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査では、市担当者様へご入居者様の普段の生活や能力等をお伝えして、連携を図っています。また、市主催の研修にも積極的に参加しています。	ホーム運営について、役所の窓口に出掛けて担当者に相談し、担当者より助言を戴いている。認定調査の申請時には利用者と一緒に役所の窓口を訪ね、普段の生活や能力を伝え連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会主催の勉強会を実施しています。また、その勉強会の内容を話し合い職員の共通認識として理解を図っています。	ホームとして開設時より「身体拘束は一切しない」と言う方針の下で、全職員の意思統一が出来ている。又「身体拘束ゼロの手引き」も、各種マニュアルと同様に職員が何時でも見る事が出来るようにファイリングされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の内容は一部の職員のみが理解しているのが現状です。一般的な虐待については全職員が理解しています。事業所内で虐待が起きないように注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員のみが理解しているのが現状です。勉強会や研修などが開催される際には、積極的に参加し、必要な時には支援できるよう努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接にて入居に関する事を説明し、ご本人様及びご家族様から疑問や不安等無いかを聞くようにしている。その後の入居時には、契約書や重要事項説明書を一緒に読み合わせながら、ご説明やご確認を行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様のご意見や要望は、生活の中で会話や行動から汲み取るように心掛けています。ご家族様からは、運営推進会議やご面会時になんでもお話し下さる様にお伝えし、出されたご意見は、会議時に話し合いサービスに反映させています。	家族のホームへの訪問が多く、管理者・職員はその都度、家族の意見やケアに対する意向を聞いている。家族アンケートの回答率も良い結果が出ており、コメント記入に関しても殆どの家族が記入している。家族が意見を言いやすい関係が感じられる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議時や、普段の関わり合いの中で、職員からの提案や意見を聞いています。また、その中から出た提案や意見を法人全体の管理者が出席する管理者会議にて話す事で提案や意見を反映させるようにしています。	管理者は日常の会話の中からも職員の思いを把握しようと努めている。把握した提案・意見を法人全体の管理者会議で提案し、職員の意見を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々現場に来て、ご入居者様と一緒に過ごしています。また、職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を聞いたり、法人全体での人事異動を行い、職場内で活かす事の出来るように労働環境の配慮をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、各委員会と各チームが毎月勉強会を行っており、それに参加しています。また、外部研修には、研修の案内を掲示する事で、職員本人の意欲や、多くの職員が研修に参加出来るように配慮しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加盟していて、二ヶ月に一度中三河ブロック交流会に参加しています。その中で、勉強会や他事業所と交流を持つ事により、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族様やケアマネージャーから頂いた情報を基に、ご入居前にご本人様の所へ伺い訪問面接をしています。その際、ご本人様のお困り事や詳しい状況等を、情報収集しご本人様と職員が良い関係を築けるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族様のご入居者様に対する思いの他に、どのようなニーズを求めているかを時間をかけゆっくり聞いています。その内容を基に、今後のケアについて職員間で話し合いをしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご家族様のサービスに対する意向やご本人様状況を確認し、それに応じて様々なサービスの情報を提供するように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様と職員は、家事、炊事等と一緒にすることで、生活を共にする事が出来ています。その中で、ご入居者様から教わる事も多いです。職員は、共に支えあえる関係づくりに努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣替えや外出等、ご家族様の生活にご負担をかけないように配慮し、ご協力をお願いしています。また、ご入居者様の生活の様子や変化をお伝えすることで、ご入居者様を共に支える関係を築けるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住んでみえるご家族様からの電話の対応や、ご友人の所へ出掛けられるご入居者様もみえ、継続的な交流が出来るように対応しています。また、馴染みのお店や美容院にも行かれ、個々のニーズに合わせたケアをしています。	馴染みの友人との関係継続のため、面会や電話対応等の支援に努めている。以前に行っていた美容院やスーパーへの買い物も支援も行っている。大家族的な雰囲気がホーム内で出来ており、新たな馴染みの関係作りを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご入居者様同士の関係性を把握し、その情報を共有しています。その情報をふまえて、ご入居者様同士のより良い人間関係づくりが出来るように調整役として対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人様を伺ったり、他事業所の職員との連携をとっています。なかには、サービス利用が終了したご本人様と一緒にご家族様がホームへ遊びに来て下さる事もあります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の普段の暮らしの中で会話や表情からお考えや思いを汲み取れるように努めています。また、意思疎通の困難な方は、ご家族様から情報を得たり、ケアカンファレンスにご出席いただいたりして、共に検討をしています。	利用者には思いを表現出来ない方も見えるので、場面、場面で思いを引き出すようにしている。又、家族からは、面会時や運営推進会議等を利用し情報を得ている。	毎日の生活の場面で新しく把握した利用者の情報を、生活歴の中に追加して記録し、職員全員で共有して行く事を望みたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時より、ご本人様が昔どのように生活なさってみえたのかや、また最近の生活はどうだったのか等、趣味や嗜好を含めてご家族様から継続的に情報を頂いています。知り得た情報を基に生活やケアに活かせられるよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、ご入居前より極力変えないように配慮しています。また、ケアカンファレンス時にご家族様にご出席いただく事で、ご本人様の能力をできるだけ引き出せるように、職員と共に検討をしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様の普段の暮らしの中で会話や表情からお考えや思いを汲み取れるように努めています。また、ケアカンファレンス時にご家族様にご出席いただく事で、ご本人様のお考えや思いを、お伝えし職員と共に検討をしています。	利用者・家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。「何が出来、何が出来ないか」の残存能力を把握し、本人にとってより良い計画を立案している。3ヶ月に1回カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。尚、状態に変化が見られた場合には随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテをご用意し、日々の暮らしの様子を記録しています。また、記録をフォーカスチャートニングを用いる事で、ご入居者様の状態の変化や職員の支援方法も分かりやすく、情報の共有をしやすくしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況や要望に応じて、外出や通院等、臨機応変に対応しています。また、介護保険に関する行政手続きの代行なども行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員や市職員の方々がご出席くださり、周辺情報や協力関係を築けています。また、地域に行事があると、声をかけてくださり参加をさせていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医にて、ひと月に一回の訪問診療を受けています。また、ご入居前からのかかりつけ医でも医療を受けられるようにしています。受診の際、職員はご家族様と同行したり、ご都合によっては代行させていただいています。	利用者全員がホーム提携医をかかりつけ医として、月1回の往診を受けている。眼科・歯科等の受診の際は職員は家族と同行したり、家族が都合のつかない場合は職員が代行している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持つ職員を配置しているが、同一敷地内に当法人の特別養護老人ホームがあり、その看護職員が、日頃の健康状態の管理や24時間体制で相談、助言、対応をとるように連携をとっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様が入院された場合には、病院へご様子を伺いにいたり、ご家族様や病院関係者から状況を確認します。また、ご入居者様の負担にならないよう早く退院できる様に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針をホームとして示していません。終末期を迎えるにあたっては、ご本人様、ご家族様はもちろん、医師、職員とも話し合いをして、常に最良と思われるケアを、随時検討して、対応していきます。	重度化や看取りに対する対応はホームとして指針を作成し、家族・職員を交えて話し合いを行っている。状態変化に伴い随時意向を再確認しながら、ホーム・家族・主治医と連携し、悔いのない支援を行う考えである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変時、様々なケースに備えて、マニュアルを用意しています。職員が初期対応を迅速に行えるよう、スタッフ会議で勉強とイメージ作りをしています。また、各委員会の勉強会に急変時の対応方法を勉強したいと提案しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災チームと連携して、年二回の避難訓練を実施しています。また、消防署にご協力頂き、避難訓練、消火器の使用方法などの講習を受けています。	消防署の協力の下で、併設施設と合同で夜間想定避難訓練を年2回実施している。	北海道の惨事の件もあるので、併設施設との防災ネットが真に作動するかの確認のためにも、夜勤体制の下での連携訓練の実施を願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様への声かけは、プライバシーや羞恥心に配慮しています。また、記録や個人情報の取り扱いには、守秘義務を守って、管理しています。	排泄時や混乱時に周囲の利用者へ配慮した声かけを行う事で、羞恥心への配慮を行っている。又、出来ないことを見極め、出来ないことを無理強いしない等、利用者の誇りや自尊心に配慮した支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様お一人おひとりに合わせて、自己決定できる様に配慮しています。また、何かを決める際には、選択をしやすい事と、慌てられないようにする事を気にかけて、対応するように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の生活のリズムや希望に沿ったケアを心がけています。また、職員の都合にならないように、タイムスケジュールは組んでいません。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様のご協力も得ながら、美容院に通って見えるご入居者様もみえます。また、外出時には、おしゃれのお好きなご入居者様は、衣類を選ばれる際に、慌てさせないように、ごゆっくり選んでいただいています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューをご入居者様と一緒に広告を見ながら考えています。食事の準備、片付けは、その日のご様子やお一人おひとりの得意不得意を見極めて一緒にしています。また、畑の野菜の収穫もお手伝いいただいています。	食事のメニューは利用者と一緒に広告を見ながら考え、利用者からの希望を引き出す良い機会にしている。準備や後片付けは利用者の得意なことを把握しながら「切る・盛り付ける・配膳等」を利用者と一緒に行い、職員も同じテーブルで食事している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスや色彩を考えて作る事はもちろん、食事量もご入居者様お一人おひとりに合わせて、確認しています。また、好みの食事や食べやすい食事形態に配慮するように、努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行うように努めています。ご入居者様お一人おひとりの力に合わせて、適切なお手伝いをさせていただいています。また、義歯を使用して見えるご入居者様には、夜間の消毒をして、清潔に保持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者の排泄パターンに合わせ、羞恥心やプライバシーに配慮した、トイレ誘導の実施をしています。また、適切な排泄用具を検討していく事で、オムツやパットに頼らなくても生活を送って頂けるように努めています。	排泄パターンを把握し、羞恥心やプライバシーに配慮したさりげない声かけやトイレ誘導を行っている。又、最適な排泄用具の検討を行った結果、オムツ使用の利用者は昼・夜共に4名までに減っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いお食事をご用意させていただいたり、水分摂取量の調整に心がけています。また、ご入居者様お一人おひとりの状態に合わせた運動をしていただく事で、自然排便が出来るように努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様に入浴の決定をしていただいたり、ご希望の入浴時間等を毎日ご確認させていただいています。また、職員は羞恥心やプライバシーに配慮してお手伝いするように努めています。	風呂は木製で、中庭を眺めながらの温かい雰囲気の入浴している。毎日入ることが基本になっており、入浴時間帯は夕食の前後である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の今までの生活のリズムをそのままホームでの生活としていただけるように、配慮しています。また、ゆっくり休息していただけるように、ご本人様の使い慣れた寝具をご用意させていただいています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様のカルテに、内服してみえる薬の薬剤情報をファイルしています。また、ご入居者様に変化がみられる際は、速やかに看護師と医療機関との連携を図り対応しています。服薬の際は、きちんと服用出来ているかの確認もしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居時に得た生活歴や情報を基に、経験を活かした役割作りに配慮をしています。また、ご入居されてからご自身で出来る事や役割を見出せるようなケア出来るように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日二回の買い物の際に、馴染みのお店や、喫茶店に出かけるなど、外出に対して重要性をおいています。外出された方は記録に残しておき、週に一度は外出される機会をご用意できるように努めています。	一日2回買い物に出掛け、馴染みの店・喫茶店に立ち寄っている。買い物についてはチェック表を作り、1週間に1回は全ての利用者が参加出来るように配慮している。又、年数回は利用者全員で外出出来るように、外食・花見等を企画実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、ご入居者様にお財布を持っていただき、お会計をお願いする等の工夫をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様から電話をかけたいと訴えがあった際は、おとりつぎをさせて頂いています。電話の設置場所も気兼ねなくお話し出来るようにしています。また毎年、年賀状を送るために、ご希望を聞いた上で、お手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く使った建物であり、ぬくもりを感じられるように照明にも配慮しています。窓は大きく自然の光を多く取り入れられるようになっていきます。共用空間は、台所と一体となっていて、食事のにおいや、音を感じられるように配慮してあります。	木を多く使い、木の温もりを感じさせる建物である。広いガラス窓から自然光が差し込み、喚起が行き届いている。利用者は思い思いの場所でくつろぎ、利用者・職員共に楽しく過ごしている。振り子時計や足踏みミシンなど昔懐かしい家具が置かれ、壁には行事の写真や習字の先生の作品が飾られて、落ち着いた家庭的雰囲気が漂っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、テーブル席、リビングにはソファを配置してあります。他にも、和室や応接椅子、長椅子を配置して、ご入居者様同士くつろげる空間作りに努めています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、馴染みの物を持ち込んでいただいています。馴染みの物に囲まれる事で、安らげる空間作りに配慮しています。また、持込みの少ない方は、ご本人様、ご家族様と相談をして、安らげる空間を作れるように、お手伝いしています。	日当たりの良い居室に箆笥・冷蔵庫・小テーブル・硯箱・縫いぐるみ・家族の写真・国家試験の免状等大切な物や馴染みの物が、ぎっしりと持ち込まれている。一人ひとりの個性溢れる居室は、利用者の生活歴そのものである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を掛けたり、トイレやお風呂にも目印をしています。ご入居者様がお使いになりやすいよう手すりを設置し、残存能力を活用できるようにしています。日々かわるご入居者様の状態に合わせて、環境整備をしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念からグループホーム年度目標さらに、個人目標を掲げて職員は頑張っているが、職員がその目標に対しての評価に達成感が味わえるような配慮が出来ていなかった。	全職員が理念を共有して実践する事はもちろん、職員が達成感を味わえる職場にする。	管理者は、各職員が個人目標を掲げる際に、話し合いの場を持ち、各々の職員の思いや技術量をふまえて、その職員と共に成長できる目標作りから、評価までを行ないます。	3ヶ月
2	23	日々違うご入居者様の情報を統一した伝達、記録方法が確立できていなかった。	全職員が情報の共有をしっかりと出来るようにする。	全職員で話し合い、新しく得たご入居者様の情報をどのように伝達、記録していけば良いかを検討し決めていきます。また、記録の書式も既存の物で良いかも検討し、より良いものを作り上げていきます。	9ヶ月
3	35	グループホームでの夜間想定避難訓練の実施ができていなかった。	夜勤体勢での避難訓練の実施をする。	法人へ夜間想定避難訓練の必要性を訴えていき、グループホームでの訓練の実施の協力をお願いしていきます。	12ヶ月
4	4	今年度管理者の交代もあり、既存のまま運営推進会議を進めていて、幅を広げる事は出来なかった。	現在ご出席いただいている方々の他に、ご出席いただける方を増やしたい。	法人及び地域に声をかけていきます。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。